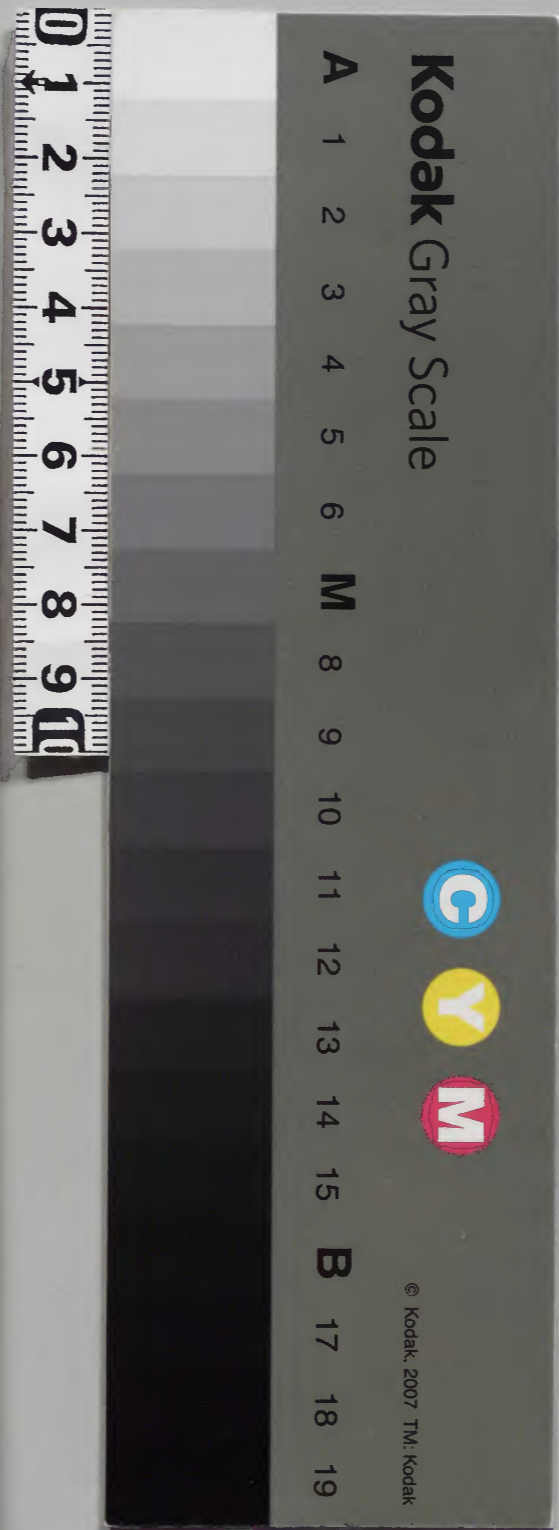


休明光記

			二七五〇四	和書門類
九冊	八架	九函		

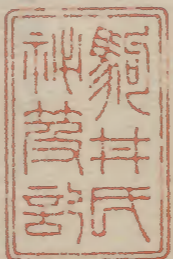
庫	文	閣	内	
天	二七五〇四			和書類
函	九冊			
二架				

内閣文庫	
番號	和 27504
冊數	9 (4)
函號	178 285



休明光記卷之四

目録



一 戸川要論羽衣の巻蝦夷地の事及び合亭

一 杉平忠明石川忠房之協成方中書省神尾親臣等安

御用出免之

一 忠明忠房の送可出在御書付の

御入費範出勘定奉行と下合出書付の

第飯出役宅兼出まゝ儀伺の

支配向の

一 村上常福出御用出免の



達一あり 此没名並此没料のり

一 廿日杉平信濃守忠明石川右近將監忠房は百ぬ夫地は用

御免為御^程征義忠明は時服田金十枚忠房は時服田金七枚賜の

是の忠明忠房より上書一にぬ夫地は征義守は此 作給ふありいふ人無し 御免さあり 御免願上あり 三橋友忠國方は廿

日日光奉りは 命御女四日時服田金七枚賜て御用代

免とせしむり忠守行因朝臣は此御用いあつて是より

は女四日服七の賜て御免也

外遠國並之通以來若年奉り此起り 此よりより御用之志執此方は 忠守よりしし入費之節此より御免は方若年寄在此没料しし返りせり

一 ぬ夫地は儀是又の頃のりたつてしし程又忠明忠房が送來

手あはるりて流内没諸の御免追て御免賜り忠明忠房が

入念り送る為事より 双方此書は信成朝臣は達一あり

一 同女五日は御勝は御助定奉り 此書付此今度要論を養

ぬ夫地の奉りは 御付新親儀は御起法は右右近御入

貴も御端の御續の定らるるに御用代に御助定奉り

一 統中流内一人お合御用て御没方御達有る御用代

可御没方信成朝臣は達一あり

一 御没代は 箱越の内は完ノ當年御没清西御免

の上去年は御初て仕やも御せし 當年は御喜人

志越御中に御没清西御免は御没代御免の御免

是迄村上三存御免の御免 御没代御免の御免

御没代御免の御免 御没代御免の御免

の事世世用向東扱くる會事して、此の申狭く余に建立
抄拾習りして、此世を奉り、信住居を成、海に
申狭くして、取、成方、家来、納り、兼、る、目、多、き、是、又、余
神の建立、あ、い、ま、い、信、住、居、の、世、出、貴、族、の、用、不
ま、神、も、當、年、多、人、此、因、三、者、越、一、て、叶、り、ま、る、子、女、の、向、り
け、ま、貴、族、論、一、き、ま、り、す、一、し、も、先、達、で、え、扱、り、ま、り
申、上、ま、り、ま、り、ま、り、當、年、官、吏、も、斗、き、一、万、端、子、の、是、ら、い、
多、此、ま、り、後、多、い、治、ま、り、の、内、在、越、り、す、と、い、ま、り、ま、り、法
此、も、ま、り、ま、り、の、ま、り、ら、ら、ら、此、後、此、も、始、り、て、此、て、大、地、ま、り
此、に、い、つ、治、ま、り、多、人、數、及、會、合、一、て、萬、端、子、の、南、議、の、遠

ま、り、は、容、易、と、い、ふ、事、に、い、ひ、ま、り、一、此、申、の、意、違、り、申、す、に、成、難
く、ま、り、は、自、然、の、理、也、と、い、ふ、事、に、ま、り、一、五、年、の、積、り
上、此、と、い、ふ、事、に、一、せ、一、と、い、ふ、通、り、の、旨、に、信、成、相、成、の
達、一、あ、り

一 支那向の事、先程の如く、佛身を以て下の者、追、て、相
下、ま、り、ま、り、當、時、此、勘、定、此、目、付、方、ま、り、外、部、御、用、の、扱、り、者、の、の
も、此、先、と、い、ふ、事、に、附、に、差、違、り、此、希、波、地、の、出、立、に、後、を、此、に、
扱、り、ま、り、一、波、波、り、ま、り、執、り、ま、り、此、達、一、有、り、の、扱、り、後、に、
申、上、げ、ま、り、一、利、面、に、此、此、達、一、何、ま、り、一、ま、り、一、繼、り、の、此、免、り、
格、式、の、の、一、一、調、二、月、此、方、信、成、相、成、一、呈、す、申、用、人、書、上

三月朔日米女山氏教相位一呈
此後名は吟味及とる 支

此向と當時此立れ時節として後考ふるに合するより前書の

おろく先方分を修りて出立をせし所は概して中流す

立和の古者當年に是迄の概り候の通に違ふ所は
修りて前書の先方分とて未だりし 同年三月六

日村と三河と馬常福は為 一 概美地沖用出免の所應長美時
股二金三枚を揚ふ

沖入貫向取斗一方向書出勘定所は為未定

より美一休の頃海見渡由出勘定所より上り

より沖入の事

此後概奉行の沖入名揚る

一 東越美地永久土地は 作付

一 概美地沖用出入用向のりけ出勘定奉行と合との出るより付

別抄に渡り入貫五年一方向書の常福は住立高和二戌年之

月十八日出勘定所は未定にて一 概美地沖用出免の

りて前調是又未定にて四月八日を以て概美地沖用金

産物代に以是又住立高和の原書に方細の爲は一 概

物々に當年より未定は概美地沖用出免の事ありて引當

目當ありしより概美一休の五年一方向海に何とあり付右

書面より出来友人より扱ひ候のり小巨細より後考ふる人

此達一有く振佐女とありし此勘定有りの執政方へ上りて
しにて之書面五月十五日守位相返よりりせせぬ
此に此州用を裁りの時より此多端の何故ありし
も皆之を兼眼のりして一併代統たる何故ありし
まが彼地のもり才一此眼目此取締の一事して是迄松前
家の所重小身より存する中一此州年限中未振夫此州
地と此夫人の介抱代肝要として聯り疑心地波をせず
柳仁徳代にて腹疑をせ外國一親む念急代り切せんと
るりままとして又姑息に流さる振切代用より此州用基
本にて諸役の此中一多端より帰すも此に於て

影形も此州用をせし此表常体の此州筋抄の末より高
より此極何よりしとのまのり此多きより此勘定有りの目
者ありて議論に及ひかきしし余儀多きものありし一併
此州の執事り容易に打明りしきるりも此入員筋の
りて此多端打合斗りしりし先達て此達一し有る上
此趣意の荒増代り此後ま各諸役の由續代りて此達や何
此中一に之通りとのありりりけきり利是迄此扱の由續
此末此中一のん此巨細り此扱二六月五日柳生主膳此達す
一人此役名子末此後有りし一唱由高和二戌年五月十日伊
守守位相返り書付此此達一あり

此子必可支酒一たり一成年より前書の通り一歳で世
一金止む

一 帳美地之斗一方のりり此勘定所が表書

と呈進一此答のりり此勘定所と答書

一 帳美地之斗一方のりり此勘定所より此勘定のりり

中より中書取次年七月十三日對島守信用朝臣のりり

與人打出一此評論此のりり簡の裡代巨細のりり

つしとのりり也仍て此評論と上評答書代認のりり九月朔

日呈し此論詰甚る長く入組こ一紙一夕のりり

故煩雜るるりハ悉く省き此勘定所より上書と此方

より此評答書一唯之表書のりり此勘定所より
書取代知らん事此要事別録よりて聞す

一 帳美人ぬ抱御取締筋のりり此勘定所より此勘定所より

付し此筋のりり此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

此勘定所より此勘定所より此勘定所より此勘定所より

亦をづし長崎の初町人も自分仕入にて交易の後
は比段人と唱つ高賣方英商引合のり式に引請の事
ふ例もあをい御つ——あるは此方の答書に——は儀場
西のりも更も附添するに成れす——せは一通りの引請の
御事未も更も——りも——は張町人請負の事早を私
領の時此町人引請の流弊成生——張夫人志の儀——速
外國人の志成通の振りありゆ、申し此御用は起り——り
此を當御用は各締の眼目に全く張夫人仕込のり——に
するも此を志成通の儀——張夫人仕込のり——に
お代りて英商に給せり——り——一時、親代を起す

を根本に松前の井段に引請の事外前より進退向後
は儀に御用は成り——り——は張夫人仕込のり——に
の事未も更も——りも——は張町人請負の事早を私
領の時此町人引請の流弊成生——張夫人志の儀——速
外國人の志成通の振りありゆ、申し此御用は起り——り
此を當御用は各締の眼目に全く張夫人仕込のり——に
するも此を志成通の儀——張夫人仕込のり——に
お代りて英商に給せり——り——一時、親代を起す

の通詞番人あり

は自然に官吏の目印標めふに代佛く振る成行つし初
年とは彼是の行つる官吏二十人余りしと云ふ出書を
も居合年三人に数代減し己今今年廿二人彼地の在任
代打更二三場所も兼持しん所をせ凡しは同く各廿町人
との不心代ありし物々に若通詞あるもいし合官吏との
目と掃り振に成言らば必一場而毎く改め改め人代嚴ま
浩きせ過ぐ礼をせあるに叶ふまし御も又も最初は如く
清く亦た整あるもるる合處らば今も此助也之より
早きの趣し早きい出ん減しつきのりんこの所却る合違
か違つ増つし物に是迄の通祥あるも代改り彼引請

町人の申えの者と入務ならば世要に落るるしといふ彼
其故きとてその世に刻り述懐の余り種々此流言等代に
あらし美人に代感すし一喜より頑馬の美人あるは多
きもの強節に及ぶ更全彼地の風儀も是迄数代是變
何れも一右体つる何れは是迄の世世流しを變るる一町
の由居すものあらば松前家柄にて却て悪交あるは斯
まのりし清く若南津津津家柄へ莫太の札入代を御
用代もは作付あるらば儀もも出入費代願ひ町人の身代
借もせせらるる刻りは損して強節も及ぶおと中朝も是
ん何れ口惜き身あるし長崎の例代引つるも彼地

も交易一通りの沖用を今抱持首の所至も有つらば帳夫
地ハ必抱持首才一の趣意なる交易ハ其次も是も長所と目目の論
の何れも扱亦前者の如く町人引請り成り恩の歩合も其
とのよりたつても必く位此随分うらまふ歩合も御金言武系
女も及びあるに千両程しりきせす一ては叶ふつらば
上州中島にりきせ右之世人の町人各代給料おしり
るも其は如何程積りし子ある毎の至二千両も及ぶ
一し南河内戸築殿町人にも中島を非余亦向一切の出入用友
吏も此も當道ふ妙措ひの上申二千兩し及ます是利付此
余も其利是との得多きを上彼引請の町人産物運送の

諸掛王形にて有る并徳兵衛産物の運賃以て一の掛り支
易筋一切の諸入用は細密に其用し産物賣金の内より
きり引らば沖收納ハ何程し有つらば帳夫
此の節運上は類々ありし夫人代十両と雇てせよ一十年
收納も千両にるは御し夫人の持首も運賃少し引請町
人ハ必無に利益代は前件此の出入用と差引らば是
些少の收納も多きと其内より前文町人の中島者り代
給料仕入金此歩合亦九二千両程しりむし其も此らハ
此收納も是らつらば其も上は取返り官吏在任も長所
ホも外場下り會而旅宿亦此も請得渡式を論判の土地道

より七年迄清取(き)と(ふ)五百両(り)初年(り)頃(り)と元(り)
の海(り)の(り)も(り)りつ(り)と(り)す(り)た(り)の(り)金(り)山(り)で(り)新(り)親(り)に
清取(り)と(り)す(り)は(り)り(り)凡(り)也(り)也(り)ら(り)は(り)も(り)寅(り)年(り)より(り)集(り)め(り)る(り)
金(り)に(り)及(り)ます(り)前(り)書(り)の(り)町(り)人(り)引(り)清(り)と(り)て(り)永(り)久(り)莫(り)大(り)の(り)出(り)金(り)の(り)ら(り)む
より(り)は(り)も(り)り(り)し(り)ぬ(り)町(り)人(り)引(り)清(り)の(り)り(り)前(り)に(り)之(り)如(り)く(り)お(り)の(り)故(り)障(り)
の(り)ま(り)は(り)容易(り)に(り)ひ(り)く(り)し(り)と(り)も(り)若(り)仕(り)入(り)方(り)代(り)金(り)の(り)町(り)人(り)
の(り)ら(り)は(り)往(り)ら(り)三(り)人(り)の(り)若(り)殿(り)一(り)層(り)代(り)用(り)の(り)せ(り)諸(り)色(り)行(り)へ(り)お(り)せ(り)ま(り)し
て(り)代(り)買(り)と(り)て(り)仕(り)入(り)れ(り)用(り)ひ(り)る(り)む(り)債(り)利(り)と(り)ぬ(り)し(り)ぬ(り)ら(り)も(り)も(り)ま(り)ま(り)
に(り)自(り)分(り)金(り)の(り)仕(り)入(り)る(り)を(り)ま(り)し(り)ぬ(り)勘(り)定(り)所(り)より(り)申(り)上(り)る(り)の(り)報(り)法(り)は(り)
お(り)り(り)歩(り)合(り)を(り)兼(り)り(り)代(り)給(り)料(り)と(り)外(り)申(り)上(り)る(り)の(り)由(り)治(り)り(り)及(り)ま(り)る(り)

申(り)上(り)る(り)の(り)り(り)若(り)仕(り)入(り)の(り)り(り)ら(り)ま(り)行(り)少(り)し(り)と(り)兼(り)て(り)お(り)る(り)者(り)
の(り)ら(り)と(り)り(り)る(り)を(り)一(り)件(り)申(り)上(り)ぬ(り)勘(り)定(り)の(り)り(り)申(り)上(り)る(り)報(り)告(り)件(り)は(り)此(り)の(り)
障(り)の(り)り(り)と(り)し(り)も(り)早(り)急(り)申(り)上(り)ぬ(り)の(り)り(り)申(り)上(り)る(り)何(り)の(り)り(り)し(り)も(り)建(り)て(り)
見(り)極(り)ら(り)る(り)も(り)何(り)ら(り)と(り)も(り)今(り)物(り)々(り)振(り)子(り)氏(り)極(り)し(り)若(り)仕(り)入(り)の(り)障(り)
の(り)ら(り)報(り)告(り)ら(り)は(り)申(り)上(り)ぬ(り)の(り)り(り)申(り)上(り)る(り)報(り)告(り)と(り)ぬ(り)て(り)し(り)物(り)と(り)
此(り)一(り)件(り)先(り)今(り)改(り)革(り)せ(り)ま(り)す(り)報(り)告(り)と(り)ぬ(り)て(り)し(り)物(り)と(り)申(り)上(り)る(り)何(り)の(り)り(り)し(り)も(り)建(り)て(り)
何(り)の(り)り(り)つ(り)つ(り)て(り)し(り)物(り)々(り)振(り)子(り)氏(り)極(り)し(り)若(り)仕(り)入(り)の(り)障(り)の(り)
隨(り)ひ(り)若(り)仕(り)入(り)勘(り)定(り)所(り)建(り)議(り)の(り)報(り)告(り)は(り)申(り)上(り)ぬ(り)の(り)り(り)申(り)上(り)る(り)何(り)の(り)り(り)し(り)も(り)建(り)て(り)
て(り)申(り)上(り)る(り)り(り)

一 暇(り)を(り)此(り)用(り)廻(り)船(り)お(り)立(り)或(り)は(り)押(り)買(り)と(り)船(り)し(り)り(り)し(り)も(り)申(り)破(り)

損於渡又ハ沙多新銀打立し何々(キ)より(キ)沖入用切
一以東交易方町人の引渡とる等々沙多の入用一切彼等
の方々の取斗(キ)中(キ)入用とる官吏の(キ)裁減(キ)
若又右の取斗要害此方より南那津村の各家波地の
沖用とる(キ)右おの備(キ)何々(キ)に(キ)入用切
て(キ)年(キ)一(キ)は(キ)何々(キ)に(キ)方(キ)より(キ)
執事ハ沙多の(キ)今(キ)交易運送一通の(キ)に(キ)は(キ)
辰己多年お續近賑(キ)内(キ)多(キ)船(キ)一(キ)の(キ)沖備
何々(キ)海(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)

何々の儀(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
船此(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
知(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
何々(キ)外(キ)は(キ)交易運送此方と(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
ん(キ)は(キ)何々の時の沖用何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
運賃(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
ハ(キ)何々の(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
何々の(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
船と遠(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)
何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)何々(キ)

此水んふくは領ふむ有るは毎時入用の事有るは
一ツの善地は有り又此水は要需の爲るは此有津津
の妻家にて備ふし其の論をきくも有り此有津津
寄居高水用は敵り彼地へある人々の多平に重役を
添て諸をせ彼より是而勤奮を補理して入員は其
あるは此水は領事にて有り此有津津

此命つすすし有りし一官のた領事有り此有津津
依て此有津津の方言は此有津津の是領事先達有る
此有津津一領事有り此有津津の是領事先達有る
にて御用船の内つ此有津津の領事有り此有津津の上打

の事此有津津の事有るは一領事有り此有津津の事
會津此有津津の領事有り此有津津の領事有り此有津津
招いてきく有り此有津津の領事有り此有津津の領事
此有津津の領事有り此有津津の領事有り此有津津の領事
あり此有津津の領事有り此有津津の領事有り此有津津の領事

一 諸家領事米買入の事此有津津の領事有り此有津津の領事
高津十五名有るは此有津津の領事有り此有津津の領事
一ツの領事有り此有津津の領事有り此有津津の領事
此有津津の領事有り此有津津の領事有り此有津津の領事
人数有り此有津津の領事有り此有津津の領事有り此有津津の領事

時の世買入米の融通し及らず身は便利をうしよる事
 沙方より養一趣意は是全々外見一通りの議論なり。元米此
 買入米の中心を廻りし時より同様に帳外化御用は身
 多品のみ買と定むらば一万一多品は此の年用意し
 て諸家願ふ来年の収納米代目高に買上代金は八九分通
 前年に減し一五万一多品は此の年用いけし願ふより身帳
 夫れに運送をせ又多品恙ある時こそ米代江戸會市へ納め即
 日に水掛し一又納主用米あり買上代金は減額に事なれば
 多品間におく事ハらくし水蔵納めする事ありとせよ
 可のきまはるく世話をする事ありす身米運入に江戸米

右のおとく斗ひて御し掛ひ出する時らも申入一俵の相場
 一拘りし事あり一拘りし事あり一俵あり一俵あり一俵あり
 米の事あり一先近年は江戸米一俵あり一俵あり一俵あり
 此の上諸國の障りにさるる振りにさるる振りにさるる
 多品はたしとて米一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり
 江戸廻りし事あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり
 本場一拘り杯のし事あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり
 砂りし事あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり
 の金あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり一俵あり
 若その願ふ此の時ハ似たりたる代米を以て納め一

似参の亦ある時「石代代」にて納る總定して納めたる時「亦」
 又秋代收納米御買と此類の即時「前金代」より「近」
 之代金「元の如く」中「入」を「出」を「付」らる「不細」なき
 道理なき納るも「限」なき「納り」て「彼」方も「何」なる「凡」
 万有「ふる」を「此」代「内」規矩「し」て「何」なる「石」代「上」より「控」を「割」
 合「代」減「し」買と「未」たる「り」世買と「米」石代二十万両「及」ぶ「時」に
 余分「米」代二万両「納」る「金」く「納」る「る」を「前」に「し」中「し」
 是「代」此「當」世「用」の「出」入「費」此「不」是「代」補「ふ」んと「納」る「所」也
 一 帳外「地」通用「し」る「洗」渡「一」等「費」又「去」る「未」年「江戸」に「廻」る「當」
 たり「者」ら「洞」渡「通用」の「有」り「し」渡「地」御「改」正「の」上「に」金「浪」渡「の」

以「て」及「ま」す「何」處「に」も「す」通用「便」利「有」る「き」勿「論」の「事」也
 ソ「レ」も「此」國「内」も「し」西「國」に「浪」通用「東」山「國」に「金」通用「を」外「遠」國「渡」
 國「に」浪「通用」する「も」前「に」研「金」一「萬」代「浪」六「貫」又「一」定「の」米
 の「支」易「波」多「し」西「金」の「不」引「の」稀「也」一「て」浪「通用」する「る」況「書」
 帳外「地」に「送」米「亦」相「交易」少「く」浪「通用」多「す」而「も」外「に」渡「せ」
 金「浪」に「を」用「は」る「事」も「し」也「と」す「し」且「近」年「諸」支「使」渡「地」に「浪」
 勝「向」^補外「入」用「の」諸「品」江戸「に」御「入」用「代」に「仕」入「渡」地「一」廻「し」御「正」
 金「浪」代「に」是「代」亦「多」し「一」被「支」使「る」帳外「人」目「指」の「亦」け「利」也
 一「て」一「つ」を「引」別「帳」に「仕」入「る」の「事」も「代」始「ま」る「る」事「也」
 正「金」浪「代」に「て」亦「多」し「一」停「山」一「金」札「浪」札「少」て「可「き」

進る江戸下して西金銭引替りういふ事ありし又賑美人女抱寄
のりふ正地紀一実意に取平らひ飲食ありし山々念氏
入腹徒次宗一すむい勿論たるしつゝもえ末辺郡の夫して漁子
の亦代少く常の食と一も余りあはげ米穀を外と交易し
米は濁り酒抄りも造匠にして用ひて邦衣類悉成木何を
も亦その交易一も不足のすし本邦下して遠隔山方
よりして飲食を致すもて不足ありしつゝも其他の生業
もて化國のり改安くもなげ自足ありしつゝも其地好まき
を賑美地と耕地の道又何して土地の諸業開けを同
飲食を外化國の振石のに移り申すも奢侈の流を固る

よおよひまを綫用の是らをも改安くしつゝも酒の事
も是迄多らく羽州酒田津輕青森辺の地酒して造りしつゝも
御由仕入よりして以来大坂灘辺の上酒仕入て廻りよ
しつゝも有是も症合損せざる為ふとて何れけり別
酒はまが手取りて本邦より後者の上酒仕入るは賑
美人の上酒仕入ひきすもそのあらは果して飲食の奢侈すし
よありしつゝも方より答つて趣意は改通用のもいふ事未年何
海の通彼地は前より亦相交易ふとてしつゝも多分の交易に
い勘定合り入組通祥商人以外の高きありしつゝも亦不
行ひ己の利益改謀りたり美人よの気清早しつゝも改

河邊の西きしとすうは場所とくに友史も多し浩合巨細の吟
味をせきと付存しし一淺用をせし何程多き交易して
等尚の上して咽細く多し事(官史をの)也数り掛ら
れし一万のり所又是近の事多し中(数千里)数年(た)り
夫人共をよとす一(今)所(持)運(ひ)又移(り)の品(物)運送(す)る
るを(ハ)多(ク)の産物(交易)し(り)て(ハ)不(便)利(なり)し
淺通用(り)て(ハ)海(邊)波(方)山(方)の仲買(体)の(よ)り(出)来(て)産
物(集)會(所)出(し)る(事)も(山)方(邊)の(夫)人(近)し(る)交
易(の)便(利)取(得)て(自)他(に)裕(に)精(練)入(者)し(る)裕(に)し
る(事)たり(且)亦(移)り(し)つ(と)衣(類)等(代)を(外)に(有)り(し)る(先)重

なりとのハ米酒烟草の類之を多し(辨)る(事)も(夫)人(共)を(よ)と(す)し(行)
新(し)き(心)の(あ)る(水)に(行)く(事)も(其)の(損)す(る)い(ふ)多(分)
ハ(一)時(に)を(仕)果(し)て(食)ひ(を)不(得)る(事)も(角)年(中)皆(ち)裕(に)し
全(く)其(日)善(し)し(事)も(境)界(に)し(る)
河(に)意(成)り(て)女(抱)は(し)作(出)上(る)法(を)衣(食)住(し)る(事)も(指)
す(る)事(も)其(日)善(し)し(事)も(境)界(に)し(る)淺(通)用(り)し(る)に(よ)り
自(他)に(裕(に)し)る(事)も(淺)行(く)事(も)米(酒)多(量)に(お)り(福)し(る)事(も)余(の)
淺(通)用(り)し(る)事(も)布(子)の(一)つ(り)も(未)だ(に)着(し)る(事)も(妻)子(お)り(し)る(事)も
多(し)る(事)も(亦)振(の)り(の)一(人)有(り)し(事)も(近)隣(の)い(ふ)事(も)七(人)も(其)
日(に)移(り)し(る)事(も)全(く)朴(素)の(質)多(し)の(事)も(申)す(是)も(其)日(善)し(る)の

境界地免々兆一なり又是迄の如きも折打分の忠誠を
會而れぬすもいも多相なりふ(す)物の出るは只酒
一杯飯一杯多とまき度ら給きすもまてあき一内身なる
るあり一今二二残之残のあてし残の以交易する中二残
代通好のあ代求るなり代あ一む女子せよと精を入れて
極くもの元来帳美人の抱のり二前もPもくつ
らに二者のと厚く一物代とらせ英食代喰はせるとす
は一旦の姑息して実のぬ抱なりは此仕辭幕の解
情代生一と著もつきて世話中受るは二つらす部
以前も悪一も代教の是已二の産業の精と生

一身のまきまきとては金くまき業の精く不精くふるとい
終に會はるまきまき二永續のぬ抱といひ二つらす部
通用神もていまにまき一も多し残代は二つらす部の
振るも(我おら一)一筋に合てまきも意らす是別
彼地産業繁栄の根本二の残通用の一量なりは産業
繁栄すもつては殆どおら二も二職代は二つらす
國(の代通す)振るも意にひ一と止るは是金と當地
此産業繁栄一に二身もつるに二外國の取
代を二及きつらなる美人のぬ代國の取歸れ身一
少くも所用の眼目まきを残通用の大量度するなり系

於て明らるるを今及以勘定而より申すは強く後通
用代雜したるは所らず年々減半通用するの事
洞金浪をも通用するやの安つらぬ金浪残通用は落き方
御多しとの議論とんてり此儀は官物何所の通流残
の外金浪は堅く通用停山名巖爰判り何れも第一夫人
金浪は持来りも亦る所物減きるに親定して何れ
波より為り金浪は元石も目しりて此も不用の金浪は草
の残と取替物一通り小取持すきいともあり洞残の事
前より夫人も宝物と唱せし首より何れもこの事
稀少に何をし程の志もなき事ありしに抑金浪洞等夫人

の申す御すり地業事お以に外國へ残しる御怨の爲
を御多し外國交易の事志達て林奈酒と打合ふ事後論地
を御の事永くゆゆるに事したるは金浪洞出夫人の
御の何をしとて吳邦つとて道重とてとては吳國交通
所他の道きゆりてあけはに張吳地に別沖國內に張吳人
かていもいめ夫独何しといもいしもさあけはに夫張
金浪洞通用をきたるはとてその事官にといしは西
地の方私領をもいもいしはとては吳國へ残しるも何れ
んやとて思ふと申すは金浪の割はゆりては振積
はるる洞残はあはしとて程の志もなき事あり

又彼地へ諸君の所の諸友吏勝は猶いそ外の事仕入相の内
を求むべき金銀札の内代用申す一その論はとも右の事
代求むるに女吏の事へは通用為人并形方の者漁り
極方のその職人そ外都る形方より漁り居るもの其は妻
と右忠の代求むるに御すは諸君の官吏代初め起て
形方より漁り入る数多しとてそを金銀札を用ひ帳吏
人并西淺代は通用申すにありたらば多端の事為人の
り疑惑代生す一志の事女吏より初め是人と札通用
すすきまにしりきり一併金銀の事札代は通用一官吏の事
はもろに其便利成る中へ帳吏地の事と限す天下一統札通

用に成る細き事と御國初より以来にありし且幣易
山田の三根札通用の事と願はば通札通用と云ふは山田の
性女に願はばとてそ遠風もはりきりそ外は圈内は札通用
の事と云ふ及す帳吏は形方の用多し何の事疑惑なきは金
に金銀の代に明白に押頭とて教道も此に云ふは為人
に云ふ及は形方より漁り居る形方並漁師はしつる海辺農
漁りその事と云ふは彼金銀札若漂換下時と拾列換夫山下
及又漁り居りては願はば換一人代たもろ是るなる科
人代もろありありと云ふは是れは且外は根札通用の換合
代申す根を以てしり札は通用と云ふは此札を請取

物の残りも通用する——帳簿地を以て一残りの札を枚十
枚に扱ふは甚不便なり——十残り札通用小一
まじりの札請取つての残りもつてよりやりすしは有時
矢張残りも通用止切らば成らるれば又一貫文札言
わく亦く札をらるる——世に潤り居るものも亦く會
場すつてを小見目扱の帳目人取れり——是は十残り
札是は十残りの札是は十文の札扱へり——教へ扱へ十残り物
の残りも扱へり——是は引も亦く巨細に會つて右
帳目扱へり——中へ會つてすすまの之を大に疑ひ成生
す——是は支取人通用番人あり——是は地へ妻を扱へ

百員——是は月代で世話する扱へり有たきものも——札通用
するにあらば彼等の拾ふに正金して——是はす札で扱へり——
の時築造る正金と引取らるる——是は時々人情の扱へり
り——是は早く正金請取扱へり——是は生——永く彼地
へ居付念を考へり——是は件金の浪り——是は南米洋花
の洋——是は成て帳目地の潤ひ——是は——是は札
通用の返り扱へり——是は又帳目人——是は酒代用ひを
する——是は説き明かす——是は酒を扱へり
要したるに——是は一年試して大坂に——是は酒を
と——是は——是は——

見取止ぬむを酒場所へしありて連々としき中より
しよりす富貴を以て其の世にありて海に在りとも平少
しつ用ひしつにまき一方向に引是らす腰更人持用
ひきずりしつひしよりするべき事あるをえり人海に
酒にありしつ伝束として数段羽羽持持赤の酒用としは
是等事より人れ為るべき酒を平生素く右赤の酒用を
しはわらす者らと造の酒用をわす之部をわらすしつら
す者後代附りたのしつ海難かしくはくしつに注は方及
及更るしつ一居て苗のしつ海に扱ひしつ
すつて実易のしつまき高き多しつ隨ひ掛並に言わはる

このまきに出産言多き時と並に言わはるしつ掛の時利程多しつ
言わはるしつ掛の時利程多しつ
まき仕入金多しつ出産増のしつ代好むしつしつらす是あり
しつ人の引請りあらは仕入延引勢多しつしつらすは言
より養つて趣意は是余り利程一通りを目當にしつら論を
腰更人の抱持地所米穀主とすつら論しつら出産言増す時
しつ掛並に言わはるしつ言論しつら先は出
損失して許用金の本体へ世人以ててんはしつら部を以て
するしつらしつら腰更人の情心をわらすしつ
に入産業地業しつ効しつ産物の出言しつ見しては言

一 錢通用の事ハ外國交易の地の道定て是れを多しき
き銀地ハ金銀數互きは英國人の幣ハ一際少く
たより銀地人々銀地ハ時々友吏の方ハ出して
海をす瓦石同振多ししハ英國人の見せは是れ
易相ハ幾倍の所ハ加へて交易ハ其人の心ハ趣
御多ハ交易の事ハ外ハは御制ハ亦多しハ物
ハは交通ハ客計ハ防まらざらんハ長崎表英國通
商の子ハ拔新ハ外銀重制ハ何れハ多しハ金銀
外國ハ拔唐紅毛ハ治らざらんハ多しハ銀地
の事ハ當時ハ何れ銀重又制ハ何れハ多しハ隨
ハ英國人の利ハ射らば英國用ハ減ハ
銀通用ハ御多しハ其ハ通用の事ハ何れハ多しハ
故障ハ趣御答書ハ其ハ見ハ銀通用の事ハ海ハ
今更ハ詮多しハ似ハ多しハ金銀錢ハ英國用ハ幣
ハ是れハ因多しハ其ハ見ハ英國人ハ抜ん
念多しハ御多しハ銀地ハ其ハ見ハ銀通用
多しハ其ハ論ハ其ハ見ハ銀地ハ其ハ見ハ銀
ハ御多しハ其ハ通用ハ其ハ見ハ銀地ハ其ハ見
有ハ其ハ其ハ見ハ其ハ通用ハ其ハ見ハ銀地
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ

ハ英國人の利ハ射らば英國用ハ減ハ
銀通用ハ御多しハ其ハ通用の事ハ何れハ多しハ
故障ハ趣御答書ハ其ハ見ハ銀通用の事ハ海ハ
今更ハ詮多しハ似ハ多しハ金銀錢ハ英國用ハ幣
ハ是れハ因多しハ其ハ見ハ英國人ハ抜ん
念多しハ御多しハ銀地ハ其ハ見ハ銀通用
多しハ其ハ論ハ其ハ見ハ銀地ハ其ハ見ハ銀
ハ御多しハ其ハ通用ハ其ハ見ハ銀地ハ其ハ見
有ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ

昔より扱はるる上は給ふがうり正金銀して清取たるをさへさ
注ぎのさしれ少く清取通用し帰國の上も速正金銀より引替
に何のうらむひらり又正正金銀早く清取のさしり帰國
急にめいじの極度止らぬす金銀代減する及理よりす
何あるも清取のさしりすしりらりらりらりらりらり
このさしり茶の類を以て儀先達しり上書よりしりしり
去る末年何少く洗錢をより此通用しりりりりりりり
と正金銀のさしり通用あり勿論通用しりりりりりりり
入りの正一己の所持の金銀何のさしりらりりりりりり
と高貴な交易はきりりりりりりりりりりりりりりりりり

と以買入亦通用あるを外のさしりのお若被地を産物屋のさしりりり
何い金銀より頼むひ交を代おり金銀つ納めを凡仕入おれ金銀より
去る諸事代料を金銀納り然又帳面日記しりりりりりりり
於て勘定立ちりりり帳目人のさしり金銀数を下りりりり
とよりらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
すりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
何らす帳目地として若外國交易物らは何程厳重の制
度と設けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
實にりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

此東程最重創或次之為一星閣船漂着する所の時日本
外の人々此國ノ地多し及び此帳更人と通對地を往來し
よりたると幾倍の移相地は金浪と交易せしむり地物も
き通對地なりしきよに奸通の道交りおたれを死す
當時もウルクツ鳩しくす人鳩しくロニヤ人十人余りあり
よりき鳩はきあろエドロクナニリある言鳩は昔屋設設の官
吏及び互往の商人南北津程商家勤めのり所をいし出被
まゝ身より被ウルクツ鳩しく帳更人往來のり所ありき
只年々春夏の月下及びラツコ狼畑にて其人少く被鳩は波
すよりしきる命洗磯一洗指す酒もこに於て已んて

用の外き浪きくより葉おろしき金浪の美園一洗す
謂よりしきる命洗磯一洗指す酒もこに於て已んて
まゝ身より被ウルクツ鳩しく帳更人往來のり所ありき
知次身ひしきる命洗磯一洗指す酒もこに於て已んて
此地より帳更地と金浪を立すところも外園一洗す要
ありしきる命洗磯の外金浪に立して數立せしきる命
惣念に祈りしきる命洗磯一洗指す酒もこに於て已んて
よ中制し女何何んをきり是邊り金浪に數立せしきる命
用いしきる命洗磯のりしきる命洗磯のりしきる命洗磯のりしきる命
はは海りまよりカラフト鳩しく信ひ山丹満島板一洗すむに斗

是より一は是等洗錢の事ありて金銀の減りて憂は
 ありしを去るるも其洗錢の因に自然に銅錢の少しと成り
 けり其精の集斂して撰るに正銀地と包とありて其撰
 出の銅錢多し且通銅商人以外のもの甚多し其撰出の
 銅錢に銅錢多しなりけり其銅錢は是より減りて其撰出の
 の南津津に於て銅錢多しなりけり銅錢の少しなりて長途
 運ばば其銅錢の減りて其撰出の銅錢少しなりけり
 會而して銅錢の少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり

是より一は是等洗錢の事ありて金銀の減りて憂は
 ありしを去るるも其洗錢の因に自然に銅錢の少しと成り
 けり其精の集斂して撰るに正銀地と包とありて其撰
 出の銅錢多し且通銅商人以外のもの甚多し其撰出の
 銅錢に銅錢多しなりけり其銅錢は是より減りて其撰出の
 の南津津に於て銅錢多しなりけり銅錢の少しなりて長途
 運ばば其銅錢の減りて其撰出の銅錢少しなりけり
 會而して銅錢の少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり
 其撰出の銅錢少しなりけり其撰出の銅錢少しなりけり

「ゆき」猥、彼地の熊夷人と通商しつゝ、
ラロニヤ國の洩れり、西地とて、
ラロニヤ國なるは、唐紅毛抄、遠く金眼、
像あるも、金眼を以て造り、只米穀不足、
交易の許とも、金眼の何れも、
通商のいひたるも、又光太夫、
浪、決山、米穀、
と、若き如く、強て金眼、
又北通用、
と、若き如く、強て金眼、
又北通用、

勤の期月、
酒、
先達、
一年、
彼地、
た、
在、
業、
一、
の、

一 産物の出る多きは産物増えしよりすしりし一丁糸は其
 後し産物の多しといひしより未利の端の多し何れはたし
 ありて海に生ずる魚類は其地方より其東の○○○
 海にて鯨の多しとありし海は鯨の場なり
 今より鯨魚の鯨は鯨魚の海中に居り生ずるものなり
 今より海に産物増えしより山はたしりし網
 振の多しとありし海は地引網の類なり引揚を振出す
 ありしその出るは増して一旦魚業の盛なり似しを
 今より海は魚の種減すし一是一旦鯨
 業として海は盛なりなりしは是は漁業の

代に扱しる官更其に依て其次第書出を別我りして
 巻紙より之類をば九鯨のよりありしを今より其しは漁業
 今若殿及び鯨魚の多しとありし海は山はたしりし
 海岸は沖合二三里の間に多く網はたしりし
 て引揚をば鯨網の目より粗し揚をば細し鯨網と鯨魚
 今より半長より細しは其堅核都合を端に一致しりし
 鯨魚は引揚の中より之をば其夜の漁りしりし海岸は
 沖合二三里の間に多し岩は多く水の中は岩はたしりし
 て古より地引網は引しりしその内は鯨魚は有川村
 戸切村よりしりし岩はたしりし波のりけ網は續合せ

その因斗鮭のより来るとき引網のしとくして漁する
阿里ししと終の村官して世國ノ日止あらす松しは終は阿
らす捕りま引網は決まの仕ありして此用地にま始りたる
よば阿ら終をましと入海来にり多獲るよの由来て
地引網は以て捕るむるや終るもあらししと海辺者
石多く殊々夜中のりまはしつと地引網は用ひし
相以終のより来る時に移るりして里俗の言ふと暮来と唱
つ海あつ面とま白にまこま西つと引網はりしとま
より網を捕る魚は海にまのりしと及ますたは是迄の百
倍の倍多くとれたまも中々捕をすし神ははるす

又鮭鮭のより海辺川筋阿ら水取集りあまよのふ
て前より地引網は用ひし又ハヤスといふよのて家あこ
種ハ沖合して物取する此鮭鮭鮭の四はは彼地まの
産るりま外の鮭鮭鮭古よりまよの仕列る漁具
以て捕るりしと前には近遠ある具もろる沖用はま
よまの具も仕列るてまのりすまといふ話もてま
彼地の魚形夥ある鮭鮭鮭は諸魚海中に元満
此上りる捕る中まの期はまの少日まのり終る鮭
鮭も二年魚も申入るよりとらすも秋来りまは川
上り登り已と死して流るる相乗地ま川と水の也

うらうのぬまく是國土の骨とす了らすん何より
以

右此勘定雨りの概合の書お件の趣取以て答けるに於て又
同年八月十日書面来りて答は趣兼初に申漁業の事お
件の趣あらはれりら以是の何より一札通用の代り罷美
地限りの通用に新渡津迄の事面白切りすより一五調
伺ひて此の事お申早は百より別段答書お申するし
兼初の趣中川飛弾等つて養育り口より中一五新渡の
事お申御安論罷取被る事お申す一於て此の地
の形勢より一監査の事一人目人御村の上勘定及てし事達し

御あり御論被地にお申しは一渡通用の事お申しは
此の地めくらすよりラロニヤ人の居住すウルツア馮つ罷美人ラッ
コ猫より一渡海のもの一何の通り停止すより一取らば知
洲てうらうす止て通取取の地より一被り一渡より一
あく只西地の方カラフト傳ひに山丹満品つ海らんもの一
弊のみある事おしつて申する程又此の地一見つては
件より一いつの事お申しは渡地つて入通取取人より一
阻許より持来ら以是の事お申す事お申す事お申す事
は渡取取たる渡取取して撰取一の洞渡取取たる事お申す
申したる西地へお申たり事何理の事お申す事お申す事

杉崎の形勢改考の事に連日、氷の西地城持極小（き）振子（こ）
のら（ら）遠（と）う（う）す（す）出（出）用（用）地（地）の（の）ぬ（ぬ）り（り）越（越）る（る）さ（さ）西（西）地（地）の（の）出（出）水（水）緯（緯）階（階）
る（る）近（近）年（年）の（の）り（り）ゆ（ゆ）多（多）時（時）ハ（ハ）山（山）丹（丹）満（満）易（易）一（一）減（減）ん（ん）と（と）す（す）の（の）防（防）き（き）方（方）ハ
可（可）理（理）也（也）の（の）り（り）ゆ（ゆ）漸（漸）々（々）世（世）以（以）振（振）夷（夷）人（人）を（を）淺（淺）通（通）用（用）不（不）別（別）て（て）是（是）説（説）未
す（す）ゆ（ゆ）折（折）ら（ら）る（る）さ（さ）今（今）又（又）少（少）く（く）改（改）革（革）の（の）り（り）又（又）穩（穩）ま（ま）ら（ら）る（る）今（今）勢（勢）
く（く）振（振）子（子）改（改）試（試）の（の）後（後）と（と）も（も）う（う）の（の）り（り）ゆ（ゆ）と（と）也（也）推（推）し（し）別（別）帰（帰）并（并）後（後）
柳（柳）生（生）主（主）儀（儀）心（心）つ（つ）ま（ま）趣（趣）を（を）演（演）記（記）し（し）先（先）母（母）の（の）志（志）を（を）ら（ら）る（る）と（と）今（今）も（も）
也（也）

